

相愛大学研究シーズ集

シーズ名	微分音による作曲理論の確立とその実践
所 属	音楽学部 音楽学科／大学院 音楽研究科
氏 名	松本 直祐樹
<p>【概要】</p> <p>1970年代にフランスで提唱された「スペクトル技法」を援用して、微分音(いわゆるドレミでは表現できない微細な音高)を含む音の堆積手法を、この10年来追求してきた。その研究は本学の研究論集に掲載されて、一定の結果をみることができた。</p> <p>いま現在の興味は微分音を含む旋法に移り、現在はルーマニアのトランシルヴァニアの民謡(バルトークからリゲティの系譜になる)、インドネシアのジャワガムラン、イラクを中心とした中東のマカームなどの旋法から、まだ調査の段階だが、共通点を見出したい。</p> <p>音楽の歴史は、ある音程をどのように分割するか歴史でもある。時系列と地域性を関連づけて立体的に論じることができるなら、私の表現手法とする「現代音楽」の位置が、より鮮明にわかるだろうと期待しているが、その道のりは途方もないと感じている。</p>	
キーワード	作曲、現代音楽、微分音